

# 株式会社 日本触媒

2006年9月中間期 決算説明会



2006年11月9日



日本触媒



日本触媒

# 中長期経営計画の進捗について



代表取締役社長

近藤忠夫

# 目次

1. 中長期経営計画
2. 個別事業の状況
  1. 電子情報材料
  2. SAP
  3. アクリル
  4. その他機能性
  5. EO
  6. 環境・触媒
3. 業績推移
4. まとめ

## 用語解説

SAP :	高吸水性樹脂
AA :	アクリル酸
EO :	酸化エチレン
FPD :	フラットパネルディスプレイ
ROA :	総資産経常利益率
NAII :	NA Industries, Inc. (米国) [SAP 製造販売子会社]
AAL :	American Acryl L.P. (米国) [AA 製造合併会社]
NSC :	日触化工(張家港)有限公司(中国) [SAP 製造販売子会社]
ICT Co. :	アイシーティー株式会社 [自動車触媒合併会社]
ICT Inc. :	International Catalyst Technology, Inc. (米国) [自動車触媒合併会社]

# テクノアメニティ V3



こだわり、変革、飛躍

中長期計画：2006～2010年度

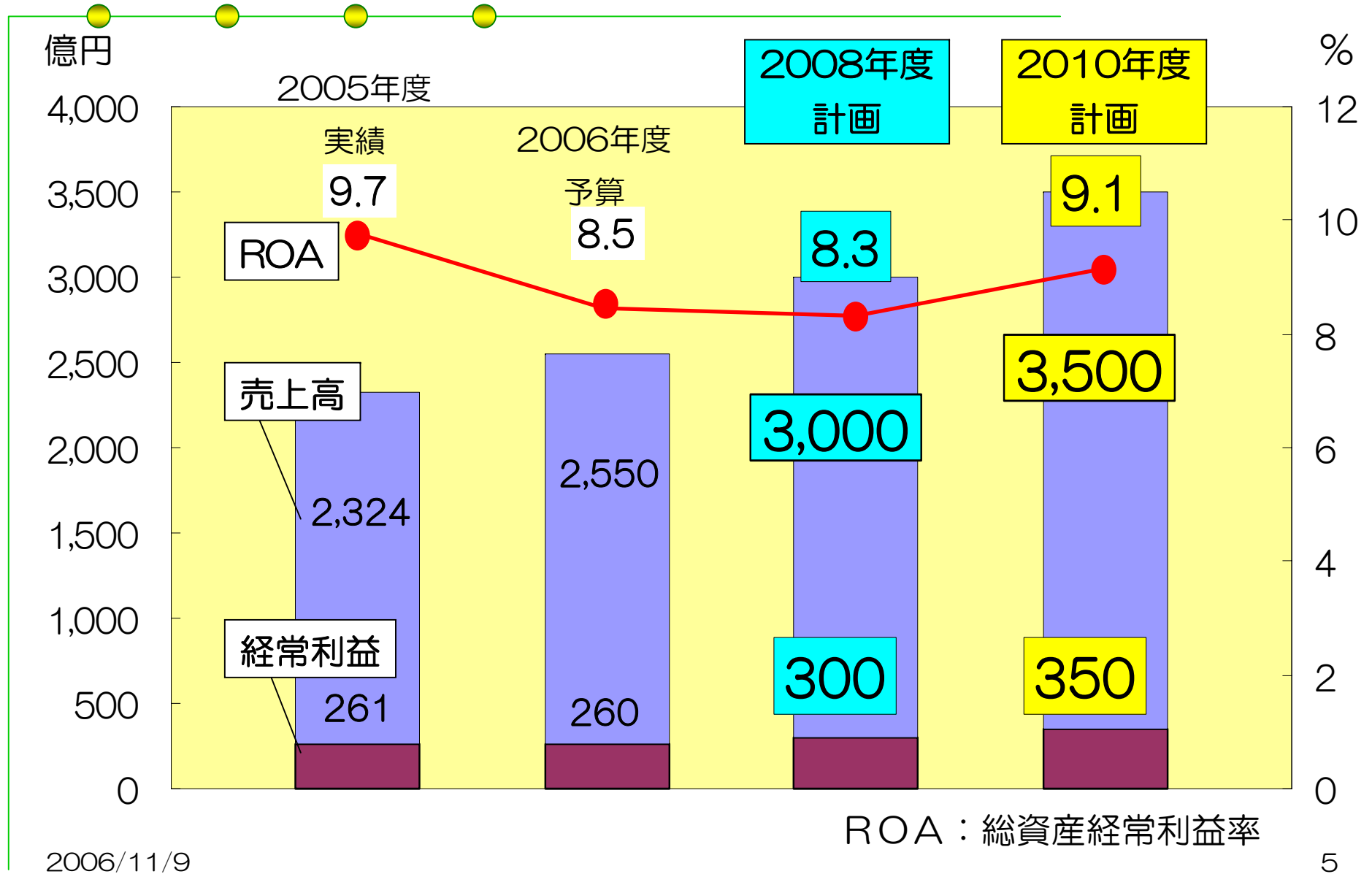
## ■ 新規事業の方向性

電子情報材料事業に特化、経営資源を集中

## ■ 既存事業の方向性

成長領域（分野、海外）へ進出

# 連結業績目標

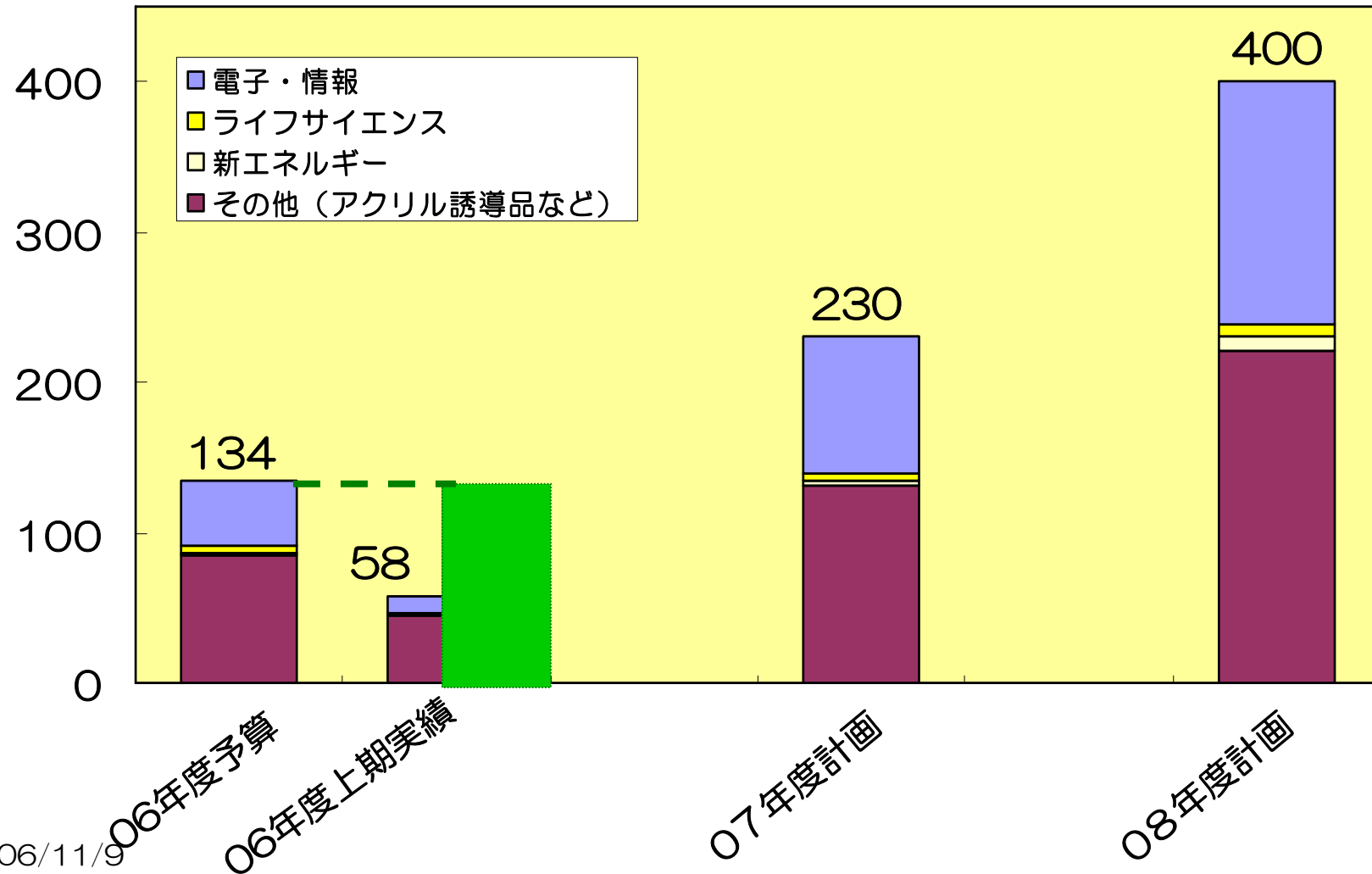


# 新規製品売上高



04年以降上市製品売上高

億円



# 電子情報材料



2005年売上高：  
**50億円**



2010年売上高：

**300億円**

電材事業部	2005年度	2010年度
表示材料	38	220
電池材料	0	24
半導体材料	12	46
情報伝達材料	0	10
合計	50	300

# 電子情報材料

分類	主要品目
表示材料	光学フィルム材料、球状微粒子、機能性色素、レジスト用ポリマー、光硬化性材料
電池材料	イオン性液体
半導体材料	レジスト用ポリマー、封止材料
情報伝達材料	フッ素系ポリマー、光学透明性材料



【表示材料】 光学フィルム材料<概要>

■用途 FPD用光学フィルム

■素材 新規アクリル系樹脂



【表示材料】 光学フィルム材料<特長>



- 光学特性 透明性に優れる
- 耐熱性 120°Cの耐熱性
- 接着性 易接着性
- 生産性 熔融押出し可能→高生産性

2010年売上高目標 100億円

2006/9 生産設備完工（姫路）

能力 3,000t/y

/10 販売開始

2007/秋 設備倍増設（姫路）

【表示材料】 光学フィルム材料<展開>



■光学フィルム分野での販売拡大

■用途開発推進

FPD関連用途（多種フィルム・シート）

その他工業用途 など

2010年売上高目標 20億円

## ■用途 アルミ電解コンデンサ

電気二重層キャパシタ

リチウム二次電池

太陽電池 など



## ■特長

低抵抗

低粘性

不揮発性

難燃性

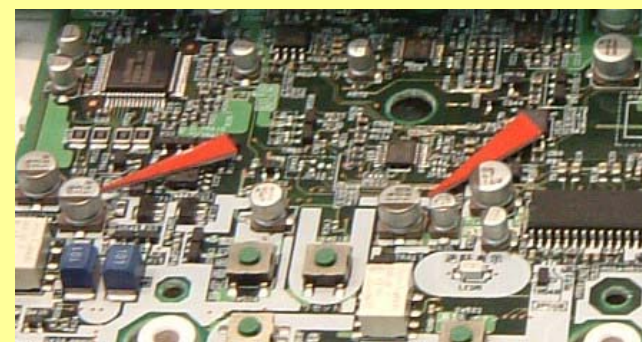
## アルミ電解コンデンサ用途

高性能化により、家電製品の小型化・薄型化が可能

有力メーカー[ニチコン(株)殿]と共同開発  
スケジュール

2006年秋 CEATEC JAPANに出展

2007年春 企業化予定



# 球状微粒子

- **用途**      スペーサー、光拡散剤、  
                         フィラーなど
- **特長**      シャープな粒径分布  
                         屈折率を高度にコントロール  
                         多彩な素材展開
- **今後**      高機能光拡散剤に注力

年度	2005年度	2010年度
売上高	26億円	80億円

- **用途** 近赤外線カットフィルター（FPD向）
- **特長** 耐久性  
層数減→コスト低減
- **今後** FPD向けトップシェアを維持  
他用途の展開；熱線吸収剤（自動車向）

年度	2005年度	2010年度
売上高	5億円	30億円



## SAP&lt;環境・アクション&gt;



## ■需要堅調 年率5%成長

紙おむつ市場 子供用：途上国 ↑ 大人用：先進国 ↑

## ■当社グループのアクション

能力増・販売増：35万トン<世界一位>

収益性改善：原料高対応の価格修正

中国 (NSC) 原料ソース多様化

米国 (NAII) 原料AA (AAL) 生産性アップ

## SAP&lt;今後&gt;

収益安定化と生産拡大で増収増益へ

- 製品新価格体系
- 設備増強

2007年度上期	姫路6万トン
2008~2010年度	6~9万トン

原料一貫体制の推進

トータルコスト削減 → 新製法開発

# アクリル酸/エステル<環境>

## ■市場動向

需要堅調



需給緩和

供給増

中国：約40万トン増設（2006年）

製品価格：底打ちからやや持ち直し

原料価格：依然高水準

# アクリル酸/エステル<アクション>

- 収益性改善：原料高対応の価格修正
- 新規アクリル酸16万トン設備（姫路）

2007年1月稼動開始

精製アクリル酸の一貫生産



コスト大幅削減

グループ全体として  
最適稼動を目指す



# アクリル酸/エステル<今後>

## ■アクリル酸

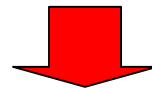
SAP向け拡大

## ■アクリル酸エステル

新規分野への拡販

電子情報材料向け粘接着材、自動車向け塗料

世界需要増 [年率約4%(AA)] を上回る当社成長



新立地での増設検討

## 積極的海外展開



- **コンクリート混和剤 用ポリマー**
- **洗剤ビルダー**
- **自動車向制振材 用エマルション**

- ・ **ワールドワイドに事業展開**
- ・ **需要地への直接進出**
- ・ **海外生産拠点でのシナジー実現**

# コンクリート混和剤用ポリマー



**用途** 高強度を必要とする構造物

- ダム
- 高速鉄道
- 高速道路
- 高層ビル 等

**需要** アジア（中国、韓国、台湾）需要旺盛

**中国** 建設ラッシュ

2008年 北京オリンピック

2010年 上海EXPO

推定市場規模： **5万トン**

# コンクリート混和剤用ポリマー



## ■ 中国 (NSC)

2007年秋

1万トン新設 (張家港)



## ■ 米国 (NAII)

1万トン設備フル稼働へ  
収益改善で業績貢献





## アクリル系ポリマー



### ■ (家庭用) 洗剤ビルダー用 水溶性ポリマー

- 原料からの一貫生産による  
コスト競争力と安定供給能力
- 新グレードの投入

米国 2005年1月 3万トン新設

アジア 2010年にかけて販売拡大、拠点化検討

# アクリル系ポリマー



## ■ 自動車向制振材用 アクリルエマルション

○ 燃費向上のための材料軽量化

○ 重労働からの開放

シート貼付手作業 ⇒ ロボットによる塗布

米国（NAII）2005年販売開始、需要伸張

年度	2005年度	2010年度
売上高	2億円	20億円

## E Oおよび誘導体

## 「脱EG」と「戦略商品としてのEO拡大」

- 非EG化さらに推進→市況の影響を極小化

非EG化率80%以上目標

- 川崎EOセンター化構想実現へ

成長需要分野への拡販 → 増設

EOユーザーとの連携強化 → 生産受託・誘致

川崎地区土地取得

# 自動車触媒

日系自動車メーカー好調→セグメント売上高拡大

2007年 姫路に最新鋭製造設備導入

## ビジネススキーム

コストセンター

日本触媒

製造

生産受委託

持分法適用会社

日本触媒 50% 出資

ICT Co. (日)

販売

ICT Inc. (米)

製造・販売

販売

販売

自動車メーカー

## 業績推移



単位：億円

	2005年度	2006年度	2006年度
	実績	当初計画	見直し推定 <sup>※</sup>
売上高	2,324	2,550	2,650
営業利益	232	230	200
経常利益	261	260	220
ROA <sup>☆</sup>	9.7%	8.5%	7.2%

※2006年度見直し推定 ・ 売価－原料のスプレッド縮小  
 ・ 下期、大型技術料収入ズレにより経常減益

☆ROA：総資産経常利益率

# 配当政策

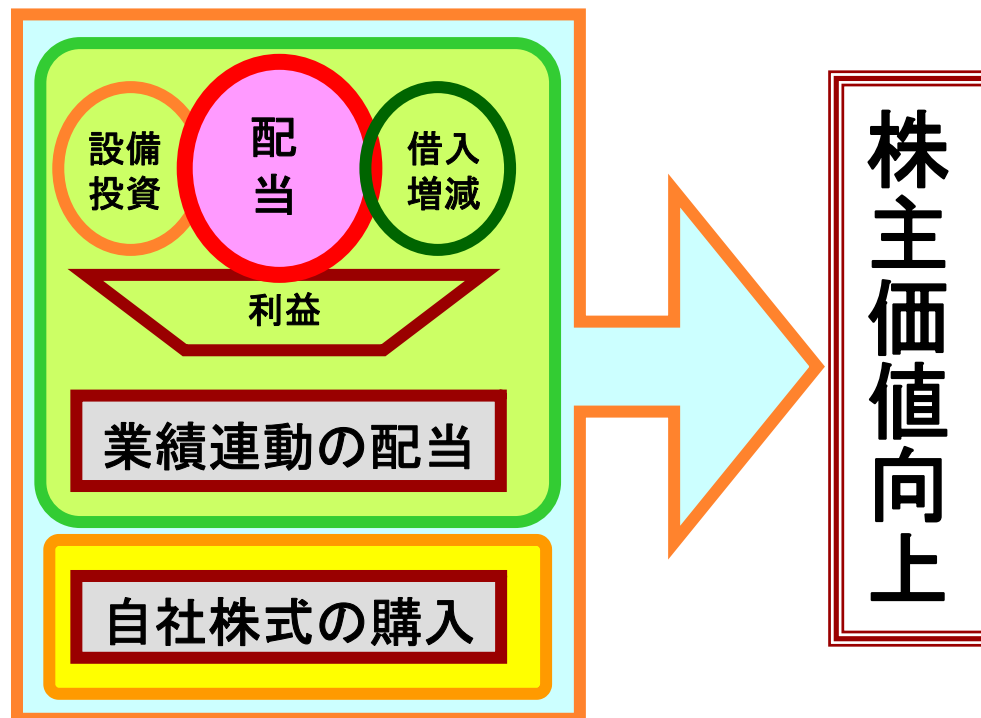
2006年度配当

上期 8円

下期(計画) 8円

---

通期(計画) 16円



高水準の設備投資継続

総還元率維持・向上

## 中長期経営計画の進捗

中期経営計画は着実に推進中

### 課題

市況に左右されない高収益体質実現

### 対応

電材： 新規大型製品上市、既存製品拡販

機能性(含SAP)：

積極的拡販、設備増強、海外展開

基礎： 新価格体系への移行